

刑事訴訟実務の基礎Ⅱ

(Practices of Criminal ProcedureⅡ)

1 学期 金曜 7 時限

授業時間：75 分×10 回

単位数：1 単位

履修年次：3 年次

担当教員：佃 美弥子（派遣検察官）

研究室：

オフィスアワー：

授業の到達目標：

実務における刑事法の解釈・運用を学び、事実認定の基礎を習得する。

具体的な事例に即して、判例・実務を踏まえた的確な事案分析を行うことができるよう、問題発見能力、事実認定能力を養うことを目標とする。

授業概要：

事前に予習事項を指定し、講義に際しては受講生を適宜指名して発言を求めるので予習をして
くこと。

講義では、実際の刑事事件記録に即した様式の教材（事件記録教材）を利用し、法曹にとって
必要な刑事実務の基礎的技能を習得できるようにする。

受講生の理解、習得状況によっては、理解の定着と、文章表現能力の涵養のため、時間内に即
日起案を求めることがある。

評価方法：

筆記試験 80%

平常点 20%

教科書：

基本書は特に指定しない。

刑事訴訟法判例百選（第9版）

なお、講義の際、六法を携帯すること。

参考書：

特に指定しない。

授業計画：

第1回：ガイダンス、捜査手続（1）

ガイダンス、捜査手続の流れ（事件発生から事件送致、終局処分までの概要）を確認
する。

第2回：捜査手続（2）

所持品検査、職務質問、任意捜査の限界について学ぶ

第3回：捜査手続（3）

事件記録教材第10号第1分冊を使用し、逮捕・勾留の要件、手続上の諸問題について学ぶ。

第4回：事実認定

事実認定の基本的な考え方と手法を学ぶ。

題材として、事件記録教材第10号第1分冊、第2分冊を使用する。

第5回：公判請求、公判準備等

公判請求、公判準備、第一回公判手続の流れを学ぶ。

第6回：訴因の特定、訴因変更の可否

訴因の意義、機能、訴因変更の可否について実務的観点から検討する。

第7回：訴因変更の要否

訴因変更の要否について実務的観点から検討する。

第8回：証拠法（1）

公判手続の流れ、証拠法に関する実務上の諸問題について学ぶ。

題材として、事件記録教材第10号第3分冊も使用する。

第9回：証拠法（2）

証拠法に関する実務上の諸問題、及び、公判における立証活動について学ぶ。

題材として、事件記録教材第10号第1分冊、第2分冊、第3分冊を使用する。

第10回：総復習